

# 世界の国や地域と協力して解決をめざす海洋プラスチックごみ問題

プラスチックなどの海洋ごみは、海にくらす生き物に悪影響を及ぼしたり、海を移動する船のさまたげになるなど、国内外でさまざまな問題を引き起こしています。2019年に開催されたG20大阪サミットでは、海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有され、世界の国や地域において、海洋プラスチックごみに対する取り組みが進められています。



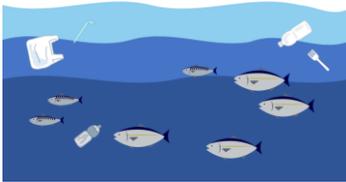
出典:外務省ホームページ

## なぜ世界の国や地域と協力するの？ 対策をしないとどうなるの？

世界では、1年におよそ800万トン(京セラドーム約7個分)のプラスチックごみが海へ流れ出ているといわれています。プラスチックは、自然の力ではなかなか分解されません。海に流れるプラスチックごみが、このまま増え続けると、2050年には、海に浮かぶプラスチックごみの重さが、世界中の海で泳ぐ魚の重さを上回ると予測されています。

2024年

10~11歳



2050年

36~37歳



## 海の生き物への影響～アオウミガメの例～

2020年11月に高知県の定置網に迷いこんで保護されたアオウミガメが、海遊館(大阪市)に運びこまれました。このウミガメは、搬入から20日たってもえさを全く食べませんでした。そのころから、レジ袋や食品の容器包装などのプラスチックごみの排泄がみられ、1~2日おきに合計16日間で21gものプラスチックを排泄しました。排泄がみられなくなるのに2か月ほどかかりました。

ウミガメは、海藻やクラゲをえさにします。海中に浮かぶポリ袋などのごみをちぎれた海藻やクラゲと間違えて食べたのではないかと考えられます。



出典:海遊館

# マイクロプラスチックを増やさないためにできること

プラスチックは、太陽の熱や紫外線などの働きで割れてくだけてしまいます。大きさが5mmより小さくなったプラスチックを「マイクロプラスチック」といいます。マイクロプラスチックは、とても小さいので、海岸で拾い集めてすべてを回収しようとしても、現実には不可能です。

また、目に見えないほど小さくくだけたとしても、プラスチックは、なかなか自然分解されないため、海の中に残り続けます。

そのため、マイクロプラスチックになる前にプラスチックごみを回収することや、プラスチックごみを出さないようにすることが大切です。



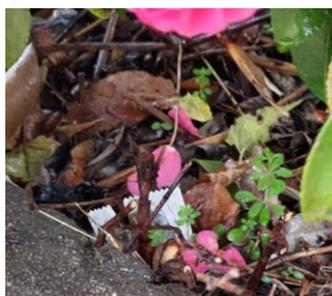
海岸に流れついたプラスチックごみ

## 身の回りをよく観察しよう

### 公園



ごみ箱からあふれるごみ



花壇に捨てられたおかしな袋

気付かないうちにマイクロプラスチックが発生していることも・・・



屋外で使われるプラスチック製品は紫外線などの影響で劣化しボロボロにくだけてしまう

### 道路



ごみ集積場で散乱するごみ



道路にポイ捨てされたタバコ  
※タバコのフィルターはプラスチックでできている

### わたしたちにできること

- ✓ ごみ箱に入らないごみは持ち帰る
- ✓ ポイ捨てをしない
- ✓ ごみを出す日や時間を守る
- ✓ 屋外で使うプラスチック製品は定期的に確認し劣化する前に交換する



「プラスチックごみ問題」の5ページも参考にして考えてみよう！

### さらにこんなことも。

### 学校給食でプラスチックごみ・CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の排出削減！

全国各地の学校給食で提供される牛乳について、ストローレス対応の牛乳パックの導入が進んでいます。

大阪府でも、令和5年度から一部の市町で供給が開始され、令和6年度の2学期から府内のほぼすべての市町村の小学校で供給されるようになりました。

プラスチックは石油からできているものが多く、原料の石油を採るときにも、運んだり、加工したり、使用後に燃やしたりするときにもCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)を排出します。

プラスチックの使い捨てストローを使わないことで、地球温暖化の原因にもなるCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の排出も削減できます。

大阪府で  
すべての使い捨てストローを  
使わずに飲むと・・・



CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)の  
削減量

年間最大約146トン

